

第6回足立区住宅政策審議会企画部会 議事要旨

- 1 日 時 平成 29 年 3 月 8 日（水） 午前 10 時 00 分から午前 12 時 00 分まで
- 2 場 所 足立区役所 401 会議室（中央館 4 階）
- 3 出席者 足立区住宅政策審議会企画部会委員（5 名）
大村謙二郎（副部会長）、明石達生（委員）、遠藤薫（部会長）、森田和彦（委員）、横村隆子（委員）
事務局（9 名）
都市建設部長、建築室長、住宅課長、住宅更新担当課長、住宅計画係長、住宅計画係主任、住宅計画係主事、ランドブレイン(株)
- 4 議事等 （1）足立区住生活マスタープラン素案の修正内容について
- 5 資 料 【部会資料 22】 第 25 回足立区住宅政策審議会 議事抄録
【部会資料 23】 住生活マスタープラン素案 修正事項と対応方針
【部会資料 24】 足立区住生活マスタープラン素案 修正版

(部会資料 22～24 について説明)

○遠藤委員 修正前の該当箇所とあるが、修正後はページがずれているか。

○ランドブレイン 修正によって 2 ページほどずれている。

○遠藤委員 項目ごとに該当箇所を教えてほしい。

○明石委員 第 5 章の地図について、地域別にどうという人が住むか決めつけているような書き方をしていると指摘があったが、それは修正されたのか。

○住宅計画係長 64 ページのライフステージ別の住生活イメージに、高齢者は花畑地域などの地図を載せていたが、それは削除した。

○明石委員 第 5 章の構成として、第 1 節と第 2 節に分けたので、地域の将来像とライフステージのイメージは分かれているが、図をみると、舎人ライナーや常磐線など地域を推測できる情報が書かれている。

○住宅計画係主任 実際には、絵に文字は書き込まない。

○明石委員 今の説明の中で分からなかったので質問した。

○ランドブレイン 資料 23、9 ページの項番 24 で、住生活モデルについて一つの地域を一つの世帯階層で構成することが逆効果なのではないかというご意見に対し、5 章の 1 節を地域、2 節をライフステージに切り分けた。そのうえで、2 章のライフステージの中では、地域名は出さないことを考えている。

○明石委員 構成の修正をしているので、結構大きいところなのではないか。

○遠藤委員 説明が無かっただけで載っている。大きな修正のため、これも含めてご議論いただきたい。

○遠藤委員 計画名称について、住生活マスタープランとするか、基本計画とするか。足立区住生活向上基本計画とした場合は、足立区のオリジナルの名称になる。

○大村委員 硬い印象があり、行政色を強く感じる。

マスタープランの方が受け入れやすいのではないか。

○明石委員 次の会議の時に、事務局が理由を書く。その理由が素直に受け入れられる書き方になっているかに尽きると思う。他でも普通に使われているため特別に変える必要はない。

○横村委員 近隣区のことを拝見したが、マスタープランという言葉が時流的に多いのではないかと。区民に難しいものではないというイメージを与えるには、役所の書類的な感じでない方がよい。

○遠藤委員 区民に受け入れやすくなっている、言葉として定着してきたという説明を加え、企画部会としても「住生活マスタープラン」で進めていきたい。

○遠藤委員 公営住宅の偏在解消という用語について、議論があったようだが、どういうふうにするか。

○明石委員 偏在のデータはどのように示しているか。

○ランドブレイン 資料 24 の 14 ページに都営住宅のデータを整理している。

○明石委員 足立区が突出していることを示している。

○横村委員 逆に足立区のグラフだけ、色を変えてはどうか。訴えたい部分を強調する。例えば、9 ページの地図は、色分けされていて特徴が分かりやすい。

○明石委員 足立区という名称の部分を囲んではどうか。

○大村委員 あまりにも意図的だが、足立区というところを強調する。

○遠藤委員 用語として、偏在解消という言葉は必要か。

○明石委員 グラフを見れば偏在していることが分かる。

○遠藤委員 大体の人はそう思うが、常にこういうご意見が出る方々にはそういう方々のバックがある。

○明石委員 偏在が問題なのか、区に偏在している

ことの解消が問題なのか、どういうふうに言えばよいか。

○ランドブレイン 都市計画マスタープランの案では、区内で偏在しているところについては適正配置という言葉にしている。

○遠藤委員 それだと趣旨が全然違ってくる。足立区として偏在解消を強調した上で、何とかしたいということを主張したい。

○建築室長 他の区も建て替えの際に、上乘せして建て替えてほしい。

○大村委員 東京都に対するメッセージと、他区に対するメッセージがある。ある時代背景のもとに、特定の地域に大量に供給されてきたのを変えなければいけないということを認識してもらうと同時に、受け入れてもらう他の区に対しても、一定割合の公的住宅ストックを確保することは必要だという主張はまっとうだし、言うべきだと思う。公営住宅に住んでいる人にとっては嫌な思いかもしれないが、区民全体にも、足立区は公的賃貸住宅ストックが増え過ぎていると認識してもらうことは良いことだと思う。住宅マスタープランで正々堂々と主張したほうが良い。言葉を変えるよりはストレートに、事実として認識するようにしたほうが良い。

○横村委員 それに加えて、資料 23 では、福祉とタイアップして地域包括や見守り等、高齢者に対する施策目標が出ている。公営住宅を単に減らすのではなく、そのバックアップとして、安心して生活が送れるように、福祉とタイアップすることを謳っている。切り捨てるだけでなく、そのバックアップとして高齢者をどう扱っていくかを施策として考えていることをアピールし強調する。他区の都営住宅の多い地区はどこも抱えている問題だと思う。そういう意味で、足立区にはこういう方針があるのだという方向になるといい。

○明石委員 14 ページの 2 を前に持ってきて、ミクスコミュニティを先にする。それでも偏在解消では減らすのだから印象は大して変わらない

○大村委員 このままでもいいのではないかな。

○遠藤委員 避けては通れない問題だが、最後に書くという方法もあるとは思っていた。

○大村委員 足立区の特徴なので、ちゃんと区の住宅の特性を見据えて、それにどう対処するか考え方を示す方が良いと思う。

○遠藤委員 偏在の偏という言葉の印象が悪いのではないかな。

○明石委員 偏在より解消の方を直すことは難しくない。

○遠藤委員 偏在解消としてよいか。

○明石委員 明快だし、都庁に突きつけたいという目的からすると、いいのではないかな。

○都市建設部長 前は偏在を低減と書いていた。

○遠藤委員 14 ページは事務局案のままとする。

○遠藤委員 基本目標 1 は確かに誤解を招くということで修正した。ライフスタイルという言葉は、落としてよいか。住宅なので馴染みはいい。

○横村委員 多様な人々と、多様なライフスタイルを持つ人々とするかで印象が変わる。多様な人々と言うと、外国文化を持つ人も含め、いろいろな人とは取れないが、多様なライフスタイルを持つ人々では、外国文化を持つ人々も含め、住意識のイメージを持って暮らしていけるイメージになる。

○明石委員 ライフスタイルに対応した施策が出れば、取り下げないほうが良い。

○ランドブレイン ライフスタイルとライフステージという、横の軸と縦の軸の 2 つの要素がある。素案の 22 ページでは、足立区の高齢化が進んでいるということもあり、基本方針 B として縦の年齢層を意識している。

○遠藤委員 ライフスタイルだけ使うと片手落ちか。

○大村委員 主な施策例には、ライフスタイル・ライフステージと現れてはいるが、目標にするには長すぎる。

○明石委員 強調しなくて良いのであれば事務局案

で良い。

○遠藤委員 ライフスタイルは主な施策例に現れているので、事務局案のままとする。

○遠藤委員 基本目標 2、「磨く」を「高める」として、事務局案のままにする。

○遠藤委員 基本目標 3 が、基本方針 F にそぐわない、という意見にどう対応するか。

○横村委員 この修正案は意味が違うのではないかな。歩いて暮らせるというのは、小さなコミュニティがあって、買い物難民もなくなって歩いてすべての高齢者が暮らせるまちというイメージになる。修正前は歩いて楽しいまちを作るということだった。「暮らせる」となるとまちの生活機能が含まれるイメージを与えるのではないかな。

○遠藤委員 住宅に特化すべきだというご意見か。

○横村委員 まちの話もあっていいが、歩いて暮らせるという言葉が、徒歩圏内で全てをまかなえるというイメージを植え付けてしまうのではないかな。

○住宅課長 歩いて暮らせるとなると、遠くに行かなくても動き回れることになる。はるかぜをぐるぐる回すのかなど、書き方を注意しないといけない。エリアの中で全てが成り立つというように読み取られないようにしなければいけない。

○横村委員 まちづくりカウンセラーで、舍人で健康なまちづくりタウンを作るとを提言した際に、歩いて楽しいまちについても書いた。歩いて楽しいまちは、住んでいる人の生活者の楽しさが溢れるから、楽しいまちになる。生活者が楽しく生活していることを感じ取れるようなまち、要するに区民がまちを作っているという住意識を変えて、まちが楽しくなる方がいい。生活している人の楽しさが溢れてくるイメージの言葉の方がいいのではないかな。

○住宅課長 歩いて楽しいまちという基本目標で、どこまで区民に伝わるか。歩いて暮らせるまちに変えたとしても、勘違いされないようにする。

○森田委員 歩いて暮らせるには違和感がある。歩いて触れ合えるといった感じではないか。触れ合ったことによって楽しめる。歩いて暮らせるでは矮小化した表現のように思う。

○明石委員 景観だけでなく、地域社会やコミュニティがあるからこそ外に出て楽しめる。楽しいという言葉はそれを表している。案として触れ合える、暮らせるなどを並べてみたときに、すっとくるのは「楽しい」で、それが地域社会を表している。

○遠藤委員 足立区なので議論ではあまり触れてこなかったが、全国的にアーバンスプロールが問題になっていた時代に、住宅というのは、都心への近さと広さだけだった。気がついてみれば、まちにインフラがなければ、そうしたところは二束三文で解体費も出ないような状況になってしまった。つまり、住宅の質の中に、住宅地としての性能が含まれている。歩いて暮らせるというのは、それを包括して表現している言葉である。誤解を与えるのは、インフラがないところにインフラを整えるのかという話で、これから再投資することはできない。インフラが整っていないところは資産価値が低いと認識することが、住宅のマーケットとしては健全な姿である。そこまで説明するのはできないので、修正案が良いのではないかな。

○明石委員 それに加えて、子供や犬と散歩している人がいるなど、地域社会の部分が「暮らせる」だけだと出てこないかもしれない。

○遠藤委員 「歩いて暮らせる」でいいと思う。一番定着している。

○明石委員 車社会ではないという意味で定着している。車社会でないことは、足立区では言う必要はない。楽しいというのが、歩いた時に魅力を感じたり、ほっとしたり、人々のつながりを感じる要素がほしい。住生活として家の中だけでなく外を含めての言葉がいい。

○遠藤委員 そういうことも含め、住宅地としての質をあなた方が決めていることを問いかけている。

○横村委員 歩いて暮らせるとしないで、区民が歩いて新しい地域の魅力を発見し暮らせるまちにするなど、一つの繋がったセンテンスとしない方がいいのではないかな。

○遠藤委員 足立区なりの解釈をすればいい。ここで何を言おうとするのか。住宅の質というのは単なる広さではない。

○明石委員 暮らせるということだけではない、心の豊かさや楽しさなどが表現できないかな。

○住宅計画係長 楽しく暮らせるまちではどうか。

○明石委員 歩ける方がいい。家の中で楽しく暮らせれば良く、家の外がなくなってしまう。

○横村委員 今の子供たちがゲームばかりやって外に遊びに行かなくなる。

○住宅計画係長 40 ページでは施策の方向で歩いて暮らせる環境づくりの説明が入っている。

○大村委員 歩いて暮らせるとなると、古典的な近隣住区みたいに、徒歩圏内で生活圏が納まることを目標としたものではない。歩いて楽しく暮らせるまちとするなど、魅力を発見することは入れた方がいい。徒歩圏内に全てが納まるのは一つの理想だが、買物活動は遠くに行ってもいい。たまたま、郊外の住宅地を色々歩き回って発見していくストーリーの漫画を読んだが、そういう話でいいのかなという気がする。発見ということと楽しさを繋げるという意味で、楽しく暮らせるとしてはどうか。

○建築室長 庁内意見では、公共施設の集約の中で、歩いて暮らせるのであれば、建物を集約する必要があるのでは、という声があがるのではないかなということに気にした主旨であった。

○大村委員 歩くことがみんなで見守ることになっているのではないかな。そういう意識が高まっていくといい。まちへの愛着心が深まっていくことが、含意の中にあるといい。

○明石委員 原案の「楽しい」のままでいいのではないかな。

○大村委員 「暮らせる」もありだと思う。

○明石委員 「暮らせる」が公共施設の集約の障害になるのであれば、「暮らせる」があると害になる。

○遠藤委員 歩いて暮らせるは、コンパクトシティや公共施設の再編に直結しているが、それを誤解されているのではないかな。

○大村委員 危惧されるところは足立区内にあるのか。

○建築室長 例えば、六町で学校の統廃合などを検討しているが、歩いて暮らせるのであれば、現地で建て替えた方がよいのではないかなという声を危惧している。

○遠藤委員 歩いて暮らせるのであれば統廃合をした方がいいのではないかな。

○都市建設部長 歩けなくなる地域が出てくる。

○森田委員 指摘の意図はなにか。基本目標 3 と、基本方針 F がそぐわないという事か。

○住宅計画係主任 基本目標 3 と、基本方針 F の方針がどう結びつくのか不明確という指摘だった。

○森田委員 資料の質問の趣旨と回答が、対応していないのではないかな。

○ランドブレイン 基本目標 3 と基本方針 F がそぐわない点と、基本方針の「歩いて暮らせる」が集約化のブレーキになるのではないかなという二つの指摘があった。

○大村委員 基本方針 F の方針を活かすのであれば基本目標 3 を変えるべきではないかなという意見なのか、基本目標 3 を活かすのであれば基本方針 F の文言を変えるべきなのか。事務局は両方を変えてしまったから混乱してしまう。

○遠藤委員 もう一つの指摘として、歩いて暮らせるという文言自体も一つの問題になっていた。

○都市建設部長 庁内意見も、基本方針 F は重要だという立場であった。それに対して、基本目標 3 が両方にかかっていない。

○ランドブレイン 基本方針 F が住宅の質に注目した方針だったが、基本目標の「まち」とどう結びつくかという部分で、基本方針 F を修正した。それ

と、基本目標3について、歩いて暮らせるに関する指摘もあり、基本目標3も修正している。

○遠藤委員 基本方針Fは修正案でよろしいか。

○横村委員 いいと思う。ただ質が高くなるのではなくまちの魅力があがる。

○遠藤委員 その上で基本目標3の文言をどうするか。

○住宅更新担当課長 歩いて暮らせるだと、徒歩圏内で全部が足りるということになる。地域の魅力を歩いて発見し、と表現すると、先ほどのご指摘にも繋がるし、まちにかからないのでどうだろうか。

○横村委員 歩きたくなるまち、歩くことが楽しいまちなど、まちづくりにも住宅づくりが目線を向けて欲しい。

○住宅更新担当課長 まちに歩くが直接かからないため、誤解が無くなる。

○明石委員 Fにそぐわないということで、Eに移したのか。それであれば移したということではないか。

○遠藤委員 歩いて楽しく暮らせるという案、歩いての場所を変えるという案などがある。そう変えた結果、六町のような小中学校の統廃合を邪魔しないか。

○明石委員 「楽しく」を残して「暮らせる」をなくす。それから場所をFからEに移す。それで解決しないか。「楽しい」が問題とされるかどうかだが、説明を加えればよい。「暮らせる」は、皆さんの感じだと無いほうがいい。

○建築室長 魅力を歩いて発見し、楽しく暮らせるまちを育てる、ではどうか。

○遠藤委員 「歩いて暮らせる」は本質の言葉のような気がする。

○明石委員 それは田舎の話だと思う。

○遠藤委員 足立区や北千住こそ唯一歩いて暮らせるまちではないか。

○明石委員 わざわざ言う必要はない。

○建築室長 地域の魅力を歩いて発見し、楽しく暮

らせるまちを育てる、としてはどうか。

○明石委員 よろしいのではないか。

○遠藤委員 地域の魅力を歩いて発見し、楽しく暮らせるまち、とする。

○横村委員 「歩いて発見」は気になる。

○大村委員 発見するのは歩かなくてもいい。

○横村委員 発見しなさい、という感じが押し付けがましいように感じる。

○遠藤委員 「歩いて発見し」も気になるというご指摘だった。

○大村委員 歩いての前に楽しくを入れ「歩いて楽しく暮らせるまち」でいいのではないか。

○ランドブレイン 「歩きたくなるまち」はどうか。

○横村委員 思わず外に出たくなって、歩きたくなる。

○遠藤委員 「地域の魅力を発見し、歩きたくなるまちを育てる」だとすっきりする。歩きたくなるでよろしいか。

○大村委員 施策の方向の中にも「歩いて暮らせる」は入っている。

○遠藤委員 基本目標3は「区民が足立らしい地域の魅力を発見し、歩きたくなるまちを育てる」とする。Fは事務局案のとおりとする。

○遠藤委員 基本目標4、「連携する」をとるというご指摘だった。

○大村委員 修正案でいいのではないか。

○遠藤委員 家賃補助についてはどうか。

○明石委員 家賃補助の説明について、財政負担が生じるので、創設を言い切ることはできないとしたほうがわかりやすい。

○大村委員 昔、都心区では新婚補助などをやっていたが、必ずしも成果が上がっていなかった。一回始めると撤退するのが大変である。事務局案の説明でいいが、何かの制度を作るときには、後年度効果も考えないと難しい。

○都市建設部長 書き方を逆にした方がいい。他の福祉施策との連携により進めていくことを先に書く。

○建築室長 新宿区が家賃補助を行っているが、応募に外れると次年度も応募して、予算額が雪だるま式に増えていく。

○都市建設部長 根本的な解決にならない。

○大村委員 恒久的な制度にするには、慎重に考えないとまずい。

○建築室長 足立区は23区内で家賃も土地代も安いので、魅力的な住宅をPRすれば転入してくるのではないかと考えている。

○遠藤委員 ご意見を採用しない理由として、お金ばかりかかることの認識を共有する。

○大村委員 いろんなことを考えて採用しない。

○遠藤委員 福祉施策との連携を先に書く形で、説明の文章を修正する。

○遠藤委員 居住支援協議会とはなにか。

○建築室長 住宅セーフティネット法で、住宅に困っている人の対策として、東京都やいくつかの区がつくっている。ただ、具体策がないため形骸化している。足立区としては、29年度に地域包括ケアの計画をつくる。その中に居住支援があるので、検討していきたい。

○遠藤委員 事務局案のままでよい。

○遠藤委員 基本方針Eの施策の方向を6項目から4項目に整理したとのことだが、落ちた項目はなにか。

○ランドブレイン もともと、1がシティセールス、2がエリアマネジメント、3が足立に暮らす魅力の創造、4が歩いて暮らせる生活環境、5が地域住民による魅力の発見、6が情報発信・開示の強化としていた。2と3をまとめ、1にしている。4は順番を変更して2としている。1と5をひとつに3にしている。6はそのままである。

○大村委員 落としたというよりは、再編だと思う。

○ランドブレイン 同時に時系列に並べた。

○大村委員 いいのではないか。

○森田委員 足立について漢字表記とひらがな表記が入り混じっている。

○ランドブレイン 基本目標に合わせて、漢字に統一する。

○建築室長 基本構想、基本計画でも漢字になっている。

○遠藤委員 原則として漢字に統一する。

○都市建設部長 歩いて暮らせる生活環境作りはこのままでよい。

○遠藤委員 ひとつレベルを落としているので、ここでは歩いて暮らせるではないか。

○森田委員 歩きたくなるという言葉はいらないか。

○住宅計画係長 40ページでは、説明として、公共交通ネットワークで連携させることでフォローしている。

○遠藤委員 歩きたくなるでも趣旨を邪魔していない。40ページの施策の方向E-2が「歩きたくなる」になるがよい。

○横村委員 買い物難民は、具体的にどの辺の地域をイメージしているか。

○大村委員 地域もあるが、公的賃貸住宅や民間賃貸住宅などの高齢者でも、外に出られなくなっている人は買い物難民で、いくつか出てきている。

○住宅課長 今回ではないが、商店街がなくなっている中で、買い物ができず大変になってきているという話は伺っている。

○建築室長 下駄履き住宅で1階が空き店舗になってしまったところもある。

○都市建設部長 地域的なものと、障害・介護などの2つの側面がある。

○遠藤委員 「歩いて暮らせる」は「歩きたくなる」でよろしいか。ここについては交通や買い物対策があり、交通だけでは解決できない問題もある。

○横村委員 買い物難民について、どういうことが

難民なのか説明が必要ではないか。

○遠藤委員 交通に関して、区が能動的に出来ることはあるかぜくらいか。

○都市建設部長 モデル的に企業から出資を集めて走らせることを検討している。

○遠藤委員 ある種、買い物難民対策にもつながる。

○大村委員 用語集に入れておけばよいのではないか。

○森田委員 買い物難民の定義を、インフラと身体的状況について2つ書く。

○住宅課長 90ページに用語集をいれている。

○遠藤委員 そこに買い物難民を追加する。

○大村委員 標語は「歩きたくなる」でいいが、「歩いて暮らせる」はほかの自治体の施策にも入っているので、そのまま生かしておいていいのではないか。

○遠藤委員 13番は偏在解消と出ていて、事務局案の通り、4番に合わせて対応する。

○遠藤委員 14番も偏在解消について、正面から行く。

○遠藤委員 15番、期限付き入居について、議論があったところだが、意見としては入れて欲しい。

○大村委員 コミュニティの新陳代謝という点では、人の入れ替わりがある方が活気をもたらす。10年間ということが最初から分かっていたら、その間で自分の生活設計してもらおう。いったん入ったらずっと最後までという割合を減らすのは、限られたストックを有効に活用するという点と、地域の活性化という点では望ましい。

○都市建設部長 URが竹の塚で学生向けの住宅をモデル的にやってくれそうな動きがある。

○大村委員 つくばの人の入れ替わりが大きいのは、大学の影響が大きい。人の入れ替わりがあるから、高齢化率はそんなに高まらない。

○都市建設部長 定住性の問題もある。

○大村委員 そのうちの何%が域内で家を探してくればいい。

○遠藤委員 定住が一番問題になったのは入れ替わりが激しすぎるニューヨークで、1年で半分が入れ替わる。少しでも長くというのを定住といったはずだった。今は永久の定住になっている。

○都市建設部長 ニューヨークの事例は外国人か。

○遠藤委員 人種の問題もある。日本で定住といった時に誤解されている。全部を期限付きにするのではなく、バランスをとるためにやるので、事務局案の通りとする。

○遠藤委員 6ページ以降で議論すべきものはあるか。9ページの24番について、58ページ以降の構成を変えている。

○都市建設部長 前は地図に丸を付けて、世帯を書いていた。

○建築室長 花畑は高齢者となっていた。

○横村委員 58ページの5地域の区分けは意味があるのか。

○建築室長 都市計画マスタープランの5地域区分になっている。

○遠藤委員 議論を呼んだところは、地域でライフスタイルを決めつけてしまうような誤解は避けたいということで、この構成はよろしいか。64ページ以降、スケッチからキャプションをとると何のことがわからなくならないか。

○住宅計画係長 「想定地域」は除いたほうがいいのか。

○遠藤委員 千住地域の一コマなどを書くのはどうか。スケッチは、キャプションがないと分らない。

○大村委員 花畑地域の事例、梅田地域の場合など、例えばということで、地域イメージがあったほうがいいのか。キャプションもあったほうが理解しやすい。

○横村委員 共働きは綾瀬だけではないと思う。一

か所だけにしてしまっていていいのかい。

○遠藤委員 あくまで例えばとする。

○都市建設部長 鹿浜、伊興、舍人とするのはどうか。

○遠藤委員 企画部会として、構成はいいが、スケッチにはキャプションを入れて、誤解のない範囲で、地域の名前を例示する。

○大村委員 舍人地域の事例、例示などとする。

○遠藤委員 1箇所に限らずとなれば、2箇所でもいいが、例示でどうか。

○大村委員 例示があったほうがいい。例えば64ページで、足立区は多様なライフステージにあった住宅地があることが大きな魅力になっているもので、あくまでイメージということを強調する説明を入れられたらよいのではないか。それが足立にとって大きな魅力につながる。多様なライフスタイル・ライフステージを持った人々を受け入れる住宅地としての可能性を示す。

○横村委員 三世代近居のスケッチについて、絵が似た感じになっているので、団地と戸建てが混ざっているようにするなど、もうちょっとバラエティがあるといい。多様なライフスタイルという話にもつながっていく。人の表現が大事だと思う。

○遠藤委員 近場にマンションがあって、スーパに冷めない距離に高齢者がいる。

○横村委員 親がマンションにいるのか、子供世帯がマンションに住むのか。区としてどちらを推奨するか。保育園を頼めるなど。

○大村委員 どちらもあると思う。

○横村委員 親に保育園の迎えを頼めるなど、そんなイメージの絵があるといい。

○大村委員 なかなか表現が難しい。

○遠藤委員 右側にマンションを入れればいいのか。

○横村委員 人のライフステージや生活イメージを伝えられるといい。

○遠藤委員 マンションとの近居にしてもらう。

○都市建設部長 キャプションの表現が間違っているとところもある。舍人ライナーや東京女子医大などの言葉を後で修正する。

○遠藤委員 構成はこれで良い。64ページの書き出しの部分で、地域の例示であることと、足立区の魅力として多様なライフスタイル、ライフステージを受け入れられる、といったことを書く。スケッチに関してはキャプションを残す。例示として地域名も入れる。66ページの三世代近居については、近居をイメージさせるように、戸建てとマンションにする。

○ランドブレイン キャプションは全部残すほうがいいか。

○遠藤委員 全部残した方がいい。

○横村委員 ライフイメージは、自分の地区がないと寂しい気がする。

○都市建設部長 地区名は複数書けばいい。

○遠藤委員 全員参加型にする。

○森田委員 三世代やファミリーの説明文について、ファミリー世帯が望むのは教育もあるのではないか。ファミリー世帯は、保育面もあるが、教育環境も望んでいる。そういう言葉を入れてはどうか。それから近居は、子供が親の面倒も見るという目的もある。そういう言葉を入れたらどうか。

○遠藤委員 スケッチを表現しているから、こういう文章になっている。

○森田委員 そういう部分も区としてわかっているということを示す。

○横村委員 絵をかくときに、1世帯のことを描くのではなく、2世帯を描いてもいい。介護している老人の世帯も描いていい。

○都市建設部長 スケッチが狭いところしか描いていないので、もっと広がりがあるように描いてもらうといい。

○遠藤委員 スケッチ自体のキャプションとは別に、文章で詳しく説明を書く。

○横村委員 キャプションの中で、親の介護も身近にできることも、三世代近居のメリットとして区民

の方に普及していくことも大事なのではないか。

○遠藤委員 その通りだが文字数が増えてしまう。紙面に余裕があるので、細かいところは別に書いてもいいのではないか。これを持つ意味合いを膨らませるという意味で、三世代近居にも2通りがある。

○森田委員 親の面倒を見てもらったほうが、施策としてはいい。

○遠藤委員 主役は親の面倒を見たほうが良いか。

○森田委員 併記でいいのではないか。

○横村委員 67 ページも、アートイベントの活動を始めるとあるが、大学生が活動して地域と関わっている様子をわかるようにする。

○遠藤委員 テントを張って、佇んでいるようなものがあればいいのではないか。

○横村委員 コミュニケーションが取れていて、地域参加したくなるような足立区という絵になっているといい。歩きたくなるまちとして、一戸一戸の家族の説明よりは、もう少し複数家族になったほうが良い。

○遠藤委員 取り組んでいただきたい。手を動かしてみても、どういう表現が良いか考えてほしい。企画部会としてはアイデアだけとする。

○ランドブレイン 身近なところをイメージしてつくっていたので、まちの広がりが入れられないか工夫する。

○建築室長 今回の住生活マスタープランの目玉は何か。ひとつは、住生活として、従来のハード面にソフト面が加わった。二つ目は、基本構想の「ひと、暮らし、まち、行財政」からの分析している。また、今までに無かった「空き家」についての利活用を初めて入れている。

○遠藤委員 よく言われるのがストック重視ということがある。その中で空き家とまで言うかどうか。

○建築室長 公共施設の建替えの際の創出用地も、ストック重視にはいるか。

○遠藤委員 公共施設の総合再編との密接な連携を

取った、などもうちょっと入れたほうがいい。

○建築室長 他区の住生活マスタープランの作りはどうなのか。

○遠藤委員 横並びなので、他区よりは、足立区として何をしなければいけないかが重要。

○横村委員 今更だが今回は防災の面が軽い気がする。他区では耐震化などパンフレットみたいな内容が多い気がする。ソフトを重視したので、そこが弱く感じる。

○建築室長 基本目標2に安全安心や、強靱な住宅地づくりをいれている。また、新たに防犯という視点も加えた。

○ランドブレイン 具体的な事業名は10年間の計画の中で名称等が変わってしまうことがあるため、少し広い書き方をしている。

○横村委員 他区では、広い面で書きながら、具体的な施策の絵があった。資料編でもいいかもしれないが、住まいるインフォメーションのように1冊で施策を把握できるものがあるといい。施策のハード面をまとめてほしい。

○遠藤委員 計画の柱として、防災面を入れる必要はあるか。

○大村委員 基本目標にも入っているが、今までやってきたことで、新規のものは少ない。防災というのは継続的にやっていくものだと思う。

○遠藤委員 今回の柱は、新たに変わったものという点で、先程の整理でよい。対外的な四本柱などについては、基本目標に書いてある。

○建築室長 17の地域に分けて分析したが、他自治体でそこまで行われているか。

○大村委員 昔から地区環境整備計画などの伝統があるので、それを活かしていると思う。

○遠藤委員 地域的に細かく分析が行われたとアピールしていいと思う。それから住まいるインフォメーションをマスタープランの中に入れておく必要があるか。

○都市建設部長 10年の計画期間で、事業は毎年変

わるので入れにくい。

○遠藤委員 そこは割り切って対応する。

○大村委員 毎年改定されているのか。

○建築室長 今回初めて作った。

以上。